

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市愛子児童館		
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団		
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 23,400人(前年度比 123.7%) 令和3年度 18,917人 令和2年度 19,562人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 63,406千円 (55,706千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、様々な地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>「安全・安心な地域の集いの場づくり～いろいろな地域の方とのかかわりを通して子どもの社会性を育む～」を重点目標に取り組みました。</p> <p>まず、子育て家庭支援事業としては「ほっとタイム」「すてっぷタイム」「じゃんぷタイム」を、5月から人数を制限した上で実施しました。また、乳幼児を対象にした「赤ちゃんルーム」も遊具等を充実して実施しました。幼児クラブは10組の登録があり、火曜日に活動しました。年齢に合わせた工作や運動遊び、七夕や夏祭り、クリスマス等季節の行事を取り入れた企画は大好評で、子育ての負担軽減や孤立感の解消につながることができました。また令和3年度から「レゴルーム」を新設し、学区外から毎回楽しみに登館するご家庭もあったので、次年度以降も引き続き設定していきます。参加者からも「家庭では味わえない活動に参加できて良かったです」「他の保護者との交流をとおして友達を作ることができました」「悩みを相談できる先生方がいるので心強いです」等々のご意見を頂戴しました。</p> <p>放課後児童健全育成事業については、感染症拡大防止のため互いの距離を確保することはもちろん児童館の過ごし方について子供たちに自ら考えさせたり、学年毎に生活の場を設定したりすることで「安心・安全な居場所づくり」に努めました。行事は、参加人数を限定した上で「わくわくひろば」として野菜づくりやカボチャでハロウィン、簡単工作昔遊び等の活動を行うことができました。外遊びでは、異学年交流の場を意図的に設定し、鬼ごっこやドッチビー等の集団遊びをとおして社会性を育むように配慮しました。また帰りの会では、毎回職員に加え上級生が読み聞かせに参加し、読書に親しませる努力を積み重ねています。感染症拡大防止を最優先に、充実した活動を展開することができたのも全職員の努力の賜物です。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、集団遊び、運動遊び、昔遊び、物作り、野菜苗植え等の活動を通して地域の方に指導を受ける等、積極的に世代間異世代交流の機会を提供している。また「VS愛子スポーツ大会」は中学生の自由来館、ボランティア活動の広がりが期待できる取り組みとなった。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、「ほっとタイム」や「赤ちゃんルーム」等、自由遊びを通して乳幼児親子の交流の場となっている。「赤ちゃんルーム」は関係機関と連携し保育士が来館して触れ合い遊びを通して気軽に育児の悩み等を話せる場となっている。保護者にとってハードルが低い育児相談が好評を得ており来館者のリピーターに繋がっている。また宮城総合支所で行われている産後交流会に出向き、チラシの配布と乳幼児親子向けの行事や取り組みの紹介を行い、地域の子育て家庭に対する児童館の認知度の向上を図り来館促進に努めている。</p> <p>地域交流推進事業においては、地域の人材を活用した親子行事中心に事業が展開されている。伝統行事や自然体験等、地域に根付いた活動は地域交流や世代間交流を図る場を提供し、活動を通して子どもの意欲や自主性を育む取り組みを行っている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、年間通しての地域のボランティアによる「お話し会」で地域のボランティアとの交流を通して本に触れたことをきっかけに、子ども達による読み聞かせの活動に繋がった。また長期休みの過ごし方について話し合う機会を設けている。職員と一緒に考え工夫、改善しながら子ども達が主体的に生活できる環境作りに努めている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課